

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第43週 (10/22-10/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		43週	42週	41週	40週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	10/22-10/28	10/15-10/21	10/8-10/14	10/1-10/7	10/15-10/21
			43週	42週	41週	40週	42週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.11	3 0.17	4 0.22	5 0.29	72 0.53
	咽頭結膜熱		1 0.06	3 0.17	1 0.06	1 0.06	36 0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	38 2.11	19 1.06	22 1.22	19 1.12	234 1.73
	感染性胃腸炎		66 3.67	60 3.33	69 3.83	57 3.35	387 2.87
	水痘		1 0.06	0 0.00	2 0.11	1 0.06	29 0.21
	手足口病		30 1.67	29 1.61	27 1.50	40 2.35	182 1.35
	伝染性紅斑	○	17 0.94	12 0.67	8 0.44	8 0.47	73 0.54
	突発性発しん		6 0.33	14 0.78	13 0.72	14 0.82	50 0.37
	ヘルパンギーナ		5 0.28	8 0.44	8 0.44	8 0.47	64 0.47
	流行性耳下腺炎		1 0.06	3 0.17	4 0.22	1 0.06	20 0.15
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		10 0.36	8 0.29	2 0.07	2 0.08	50 0.23
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	○	13 2.60	2 0.40	5 1.00	4 0.80	34 0.97
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.67
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	クロイツフェルト・ヤコブ病	男性	80歳代	臨床症状、脳波等
結核	女性	30歳代	IGRA検査等	梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出
結核	女性	90歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
急性弛緩性麻痺	女性	10歳未満	急性の弛緩性の運動 麻痺症状の継続等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
急性弛緩性麻痺	女性	10歳代		百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出

・第43週は、結核3件(16)、急性弛緩性麻痺2件(2)、クロイツフェルト・ヤコブ病1件(1)、梅毒1件(22)、百日咳3件(188)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

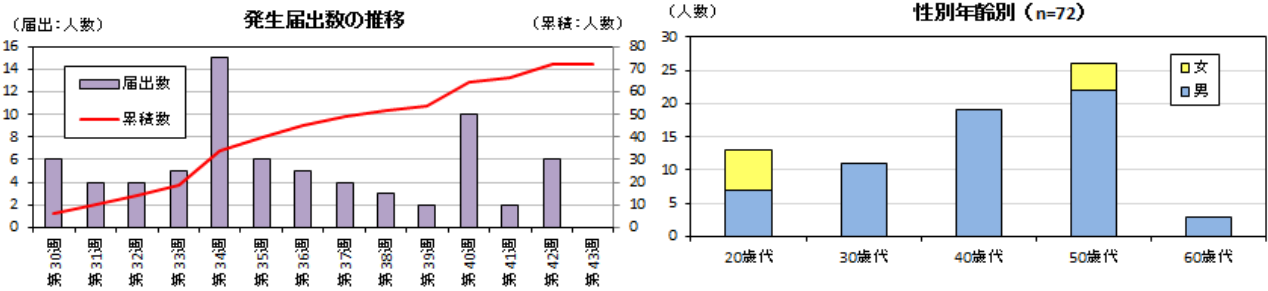
定点当たり報告数 第43週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.11となった。過去10年の同時期と比べると多い。
<伝染性紅斑> 前週より増加し0.94となった。過去10年の同時期と比べると2015年と並んで最多。
<流行性角結膜炎> 前週より増加し2.60となった。過去10年の同時期と比べると非常に多い。

■ トピック ■

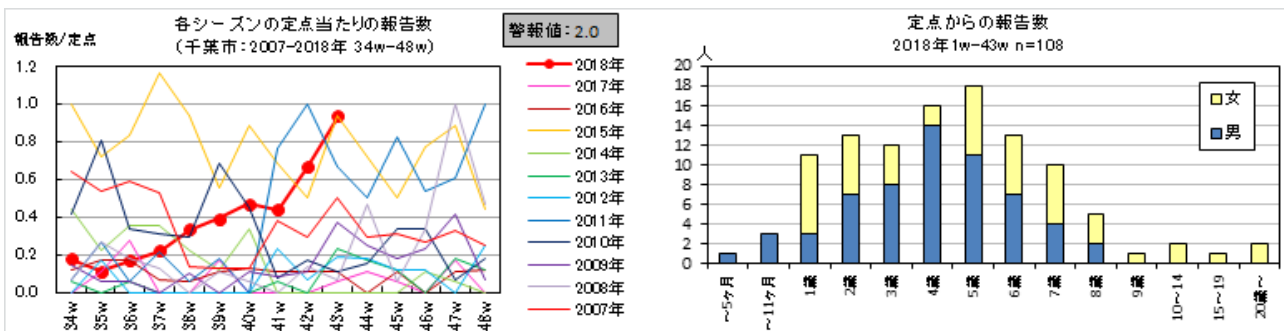
<風しん>

全国レベルの第42週の累積報告数は1486件で、昨年の同時期と比べるとおよそ20倍となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第43週は13週ぶりに発生報告がありませんでした。2018年の累計は72件となっています。



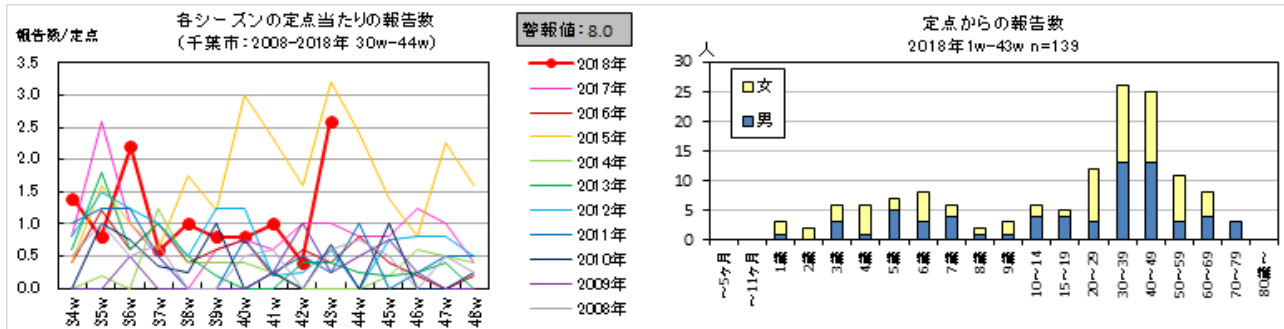
<伝染性紅斑>

全国レベルの第42週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、東京都、神奈川県で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第36週からほぼ連続して増加しており、第43週は過去10年の同時期と比べると2015年と並び最多となりました。区別の発生状況は稲毛区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第43週の累積報告数は108件で、性別では男性が55.6%(60名)、女性が44.4%(48名)で、年齢階級別では5歳(16.7%:18名)、4歳(14.8%:16名)、2歳及び6歳(共に12.0%:13名)の順で多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルの第42週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、鹿児島県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第43週は前週より増加し2.60となり過去10年の同時期と比べると非常に多くなりました。区別の発生状況は美浜区(8.0/定点)で流行発生警報開始基準値と並び最多で、同区の40歳代で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第43週の累積報告数は139件で、性別では男性が47.5%(66名)、女性が52.5%(73名)で、年齢階級別では30歳代(18.7%:26名)、40歳代(18.0%:25名)、20歳代(8.6%:12名)の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第42週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、北海道、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同程度となっています。千葉市の第43週は前週より増加し2.11となり、過去10年の同時期と比べると多くなりました。区別の発生状況は緑区(5.0/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第43週の累積報告数は208件で、性別では男性が54.3%(113名)、女性が45.7%(95名)で、年齢階級別では4歳(22.1%:46名)、5歳(15.9%:33名)、3歳及び6歳(共に11.5%:24名)の順で多くなっています。

